

# 職場づくりとまちづくり

令和2年度 第1回

奈良県・市町村長サミット

奈良県コンベンションセンター

2020年8月19日

蓑原 敬

## この難局を乗り越えるために必要な首長のリーダーシップ

(平成30年度第4回会合でのお話で僕が伝えたかったこと)

人口増、開発途上、成長時代には経済本位、施設本位の考え方が不可欠だった。人口減、超高齢化、成熟時代の今、地方自治体が抱える課題を解決するためには、人本位、住民本位の考え方に立った政策転換をしなければ、地域社会の安定、維持、再生ができなくなっている。

福祉行政は、近隣地域の人々の助け合いに期待する地域包括ケア政策へと方向転換をしている。地方分権一括法に従って、知事、市町村長の一体的な行動によって、より包括的な地域包括整備行政の積極的展開が不可避になってきている。

世界的な動乱期に入って、戦争や疫病災害などのリスクへの対処、地球温暖化に伴う自然災害への対応、AI・IoT産業革命による経済社会改革への対処は国の責任だが、地方の先導的な役割が不可欠になってきている。

文化的風土の維持再生、地域産業の活性化、若者のための個業、高齢者のための生業の創出など、超高齢化社会に対応した地域包括整備政策によって、住民の生活を守る仕事を通じて、地域社会の活性化を図ることが避けられないと考えている。

# 今日のお話の要旨

## 1. 前回、知事が最後に出した質問の内容が、そのまま今日のテーマになっている。

- 1) 県土の土地利用を、どう総合的に考えていくのか？（県が主催する土地利用懇談会が始まった）
- 2) 街の賑わいをどうすれば再生できるのか？（今、街はどこにあり、街に何を期待しているのか）
- 3) AI、IOTによる技術革新の時代は地方分散を促すはずだ（3に掲げる新しい時代が、それを加速する）

## 2. 職場づくりとまちづくりの歴史

- 1) 職場づくりとまちづくりは一体的な仕事だった。（工業団地、住宅団地、都市再開発、規制緩和）
- 2) 技術革新と経済システムの変化による職場と家の変化、インフラ整備がまちづくりの姿を変えてきた。
- 3) これからの職場づくりでは、暮らしの環境の良さが職場を産みだす。（魅力ある地域と住宅）

## 3. 急速に押し寄せてきている新しい時代

- 1) 人新世時代の気候激変（自然リスクへの対応）
- 2) コロナなど頻発する疫病、テロなどの危機（人為リスクへの対応）
- 3) グローバリゼーションの浸透と破綻（国内格差、南北格差の拡大、一国至上主義、EU離脱・・・）
- 4) この時代に即応できるのは、暮らしの環境（仕事と暮らし）が安定した豊かな地域。

## 4. 県民と県土を守り、豊かに暮らす仕組みをどう再構築するのか

- 1) 地方分権のこれからの時代、余裕がある卓越した風土を持つ奈良は大きな可能性を持つ。
- 2) その風土を生かして、人本位の政策、使い捨てでない経済、心の余裕が持てる豊かな環境を再生する。
- 3) 世界の趨勢に目を配りながらも、奈良らしい豊かな暮らしを自ら創り出す。